

“Yellowstone” と呼ばれた画家 Thomas Moran

高橋 順子

Thomas Moran (1837-1926) は、ロッキー山脈の奥地を描いた Albert Bierstadt (1830-1902), カリフォルニアのヨセミテ溪谷を描きつづけた Thomas Hill (1829-1908) らと共に19世紀アメリカ風景画家の一派, ハドソンリヴァー派の最後の輝ける時を飾った画家であった。1837年イギリスのボルトン (Bolton) に生まれた Moran は1844年7歳の時, 家族と共にフィラデルフィアへ移住してきた。16歳の頃から木彫職人の弟子となり, のちにフィラデルフィア在住の画家 James Hamilton (1819-78) の弟子となった。Hamilton は自然を克明に描き, ヨーロッパの画家たち, 特に Joseph Mallord William Turner (1775-1851) の影響を受けていた。彼は海の風景をよく描いたが, 嵐の海の様をすばやく, 大胆な筆使いで情緒豊かに描きあげ, アメリカのターナー (the American Turner) と呼ばれることもあった。(この呼び名はのちに Moran にも与えられることになる。)

1854年 Hamilton はイギリスへ行き, Turner の作品を実際に鑑賞すると共に多くの資料を持ち帰った。このことから Moran は Hamilton をとおして, さらに Turner に傾倒していった。1861年から62年にかけて Moran がイギリスへ行く機会を得た時, 彼は特に Turner を研究し, Turner の色づかいや, 効果的雰囲気表現のしかたなど, 当時すでに故人となっていた Turner の影響は, Moran がアメリカ西部の大自然を描くようになってからも生きつづけたのである。Turner の特徴的な温かみをもった黄色やオレンジ色, 補色としてのブルーやグリーンなどが, Yellowstone の雄大な自然を描き出すのに最適な色として大いに効果を上げた。Turner のこれらの色は

Moran がアメリカ西部の未開の地の神秘的な寂漠さを表現するのにこれ以外の色使いは考えられないといえるほどの効果を生み出したのである。

Moran の作品にはほとんど人物が描かれない。アメリカ原住民が描かれることはあっても、その他の人物が描かれることはほとんどない。Moran の頭の中では原住民は自然と一体化しているように映っていたのかもしれない。人物がないということは、おのずとその作品に静寂さ、崇高さ、壮大きさが伝わってくる。人が安易には近づけない場所、神の存在さえ想わせるような荘厳さを画面をとおして伝えたかったのではないだろうか。このことにおいて Moran はアメリカの崇高な雄大さ (American sublime) を表現した代表的画家といわれる。

Moran の時代には、写真の技術が発達し、未開地の風景も多く写真撮影されるようになった。当時の画家たちの中には、それらの写真をもとにして風景画を製作するという“実験”を試みるものも出て、Moran もそのひとりであった。しかし彼は、その写真から出た風景を土台として、さらにさまざまな自然の形 (山、岩肌、立ち木、倒木など) を加えて、風景画としての効果を演出した。それ故、彼の作品と同じ場所を探し出すのはなかなか困難だといわれる。しかし、このような手法はハドソンリヴァー派の画家たちの特徴であって、Moran がはじめてではない。Thomas Cole の描いたキャツキルの風景も、Frederick E. Church の描いたアンデスの奥地の風景も、Albert Bierstadt の描いたロッキー山脈の風景も、すべて目の前に広がる光景だけでなく、それぞれの画家の心の中に映った風景として描かれている。

Moran は1902年に出版された“American Art and American Scenery”の中で、自分の絵画に対する考えを次のように述べている。「アメリカの画家の多くは、外国の地に画題を探そうとするが、これは私には不思議に思える。外国の画家が自分の国のものではない風景を自分のものとして描けるものではない。故に画家というものは、自分自身の国をテーマに描くべき

なのだ。ヨーロッパの美術学校で学んだ技術や知識を使いながら……」半世紀以上も前に、Thomas Cole が “Essay on American Scenery” (1835) を、Asher B. Durand が “Letters on Landscape” (1855) を出しているが、Moran の考え方もこの流れをくむものである。この絵画に関する考えは、19世紀のアメリカを流れつづけたのみでなく、20世紀になっても Edward Hopper, Andrew Wyeth などに受けつがれている。たとえ外国へ絵画の修業に行っても、そこで多くの有名画家たちの作品を観て、模写をしたり、スタイルを取り入れたりすることがあっても、自分の国の存在を忘れてはならない。これはかつて Cole がはじめてヨーロッパへ発つ時に、友人であり、良き理解者であった William Cullen Bryant が彼に贈った詩 “To Cole, the Painter, Departing for Europe” を思い起こさせる。この中で Bryant はアメリカの大自然の美しさ、荘厳さをさまざまに語り、Cole にこの大地を決して忘れることがないように強く要請している。これらの例は、19世紀アメリカ社会の一般的風潮を物語っている。独立後約半世紀を経たアメリカに生きた良き市民、すぐれた知識人たちが、しっかりと心に刻んでいたことで、自分たちの力で独立させた国への共通した思いではなかったであろうか。Moran 自身もイギリスへ行き、すでに Hamilton から教えを受けていた Turner の作品に直に触れ、おおいに感動し、多大な影響を受けたが、アメリカへ戻った彼は Turner の imitation を製作するのではなく、自分が選んだテーマ、構図に Turner から学んだ色彩を加え、つぎつぎと多くの大作を発表した。主な作品は次のとおりである。

1872年 The Grand Canyon of the Yellowstone (213 x 365.7cm)

1873-74年 The Chasm of the Colorado (214.3 x 364.6cm)

1875年 Mountain of the Holy Cross (210.2 x 164.5cm)

1892-1908年 The Grand Canyon of Colorado (134.6 x 238.7cm)

1893-1901年 The Grand Canyon of the Yellowstone (245.1 x 427.8cm)

- 1900年 Shoshone Falls on the Snake River (180.3 x 335.2cm)
1912年 Grand Canyon (From Hermit Rim Road)
(77.5 x 102.87cm)

19世紀アメリカの西部開拓は、多くの探検隊を派遣した時期でもあった。1804年から1806年にかけてのルイスとクラークの西部探検にはじまり、ルイジアナ購入によって、アメリカ政府の命を受けて送り出される探検はつぎつぎと続いた。領土拡張による他国との紛争に関する軍事的目的であったり、正確な地図の作成、幌馬車隊や鉄道拡張のためでもあった。この事業は南北戦争でしばらく中断されたが、戦後ふたたび目が向けられるようになった。今度は定住のため、観光旅行のため、商業活動のため、天然資源開発のためなどが目的となった。1867年から1879年の間、合衆国政府は4回にわたって西部への探検を援助した。これは The Great Surveys (大調査) として知られている。これらの探検には、政府関係者だけでなく、Smithsonian Institution や個人企業、鉄道会社など一般からの参加も多かった。それぞれの分野の専門家も含まれ、農業に適した土壌を調べ、地勢図を作成し、動植物のサンプルを収集し、自然や天候の観察などを行った。また当時普及してきた写真撮影もさかんに行われた。それまでは旅行記など言葉のみで伝えられていたことが、このようにして目に見える形で未開の地、西部の様子がしだいに報告されていった。

‘目に見える’ 報告の中には絵画も含まれていた。Thomas Moran も Frederick E. Church も Albert Bierstadt も Thomas Hill も、それぞれ探検隊に同行し、自分の目で見た光景を描き出した。風景画家として Moran の最大の貢献は、遠隔の地イエローストーンの自然美を描きつづけ、アメリカ政府にその地域を初の国立公園として指定させ、この広大な地区を政府の管理下に置くという結果を生んだことにある。これでこの地は開発の犠牲にならずに、今日までその自然美が保たれつづけてきたのである。さらに

また彼の作品をとおして、人々は遠く離れたところにある大山脈の奥深い場所にどのような景観が望めるのかを知り、そこが自分たちの国の一部であるということに誇りと親近感をもつようになったことも彼の貢献のひとつであった。

つぎに前述の Moran の作品について述べる。

“The Spirit of the Indian” (1869年)

1860年 Moran は開発計画のあったミシガン州北部のスペリオール湖周辺を訪れた。壮大で荘厳な自然の景観にふれ、彼は深い感動を覚えた。そこで彼は Henry Wadsworth Longfellow の詩 “The Song of Hiawatha” を意識するようになった。1869年大陸横断鉄道の完成により Moran はさらに西部への関心を強めていった。この作品の中で Moran は主人公 Hiawatha を画面中央下に小さく配置し、まるでアメリカ製ヘラクレスのような巨大な姿の精霊（インディアンの神 Manito）を遠景の山々が重なる中に描いている。さらに遠景の山、雲、空が霧におおわれた様を描いているが、これは淡い黄色、砂色、白色、ベージュなど Turner 的様式が用いられている。

“The Grand Canyon of the Yellowstone” (1872年)

1871年政府派遣の西部探検隊が組織され、風景画家として34歳の Moran も参加した。1869年に大陸横断鉄道の完成し、広大な未開のフロンティアであった西部は終わり、移住を目的とした新天地として変化してゆくことになった。大陸横断鉄道会社は競って西部開発の宣伝を始めた。最初は移住というより、まず観光を目的とした事業に乗り出した。たとえば Northern Pacific Railroad 社は Moran の作品に注目し、彼に宣伝用の風景画を製作するよう依頼した。しかしこの作品は政府に買い取られ、議事堂内に掲げられた。奇怪な岩が群れをなし、イエローストーン川が流れる大渓谷の壮大な景観の中に、画面中央下方に小さくインディアンを配し、大自然

の中での人間の存在の小ささを示している。また色彩は Turner 的な黄色、ブルー、白色が駆使され、中央遠景の滝を中心とした V 字型三角形の構図をとっている。

“Chasm of the Colorado” (1873–74年)

1873年 Moran は John Wesley Powell 少佐と共にコロラドのグランドキャニオン探検に参加した。その成果としてこの作品が制作された。これは縦2メートルを超え、幅2メートル半を超える大作である。ここでは、連なる岩山の間 chasm (大きな裂け目) の上部を描き、その裂け目がどれほど深く落ちて行くかを暗示している。また、それぞれの裂け目の底からたちのぼる霧も、画面左側に迫る雷雨の激しさも、人間の力を拒絶するかのような雰囲気盛り上げている。この大作に対して Atlantic Monthly 誌は、Bierstadt を凌ぐ作品だと賞している。この作品も政府に購入され、前作 Grand Canyon of the Yellowstone の隣に (議事堂ロビーに) 展示されることになった。

“Mountain of the Holy Cross” (1875年)

The Mountain of the Holy Cross はコロラド州にあり、山の斜面に残る雪渓が大きな十字架に見えるところから、この名がついた。古くはスペイン軍または伝道師たちの伝説的な存在であったが、1873年の政府派遣探検隊によって発見された。この後 Moran 自身もコロラドに旅をして、この山を描いた。この作品はフィラデルフィアの Centennial Exhibition に出品され、話題作となった。未開の西部の奥地に聳える雪の十字架を背負った山は、manifesto destiny の最終的目標となり、国民の意を高揚させた。前景の川や周囲の山々を暗くし、遠景の、雪の中に浮かび上がったような the Mountain of the Holy Cross を Turner 的的白色とブルーで明るく浮き立たせるように、効果的な構成になっている。まさにそこは人の世を離れた天の

象徴的存在にみえてくる。この作品はコロラド鉄道の資本家 William A. Bell に買い取られた。

“The Grand Canyon of the Colorado” (1892–1908年)

この作品は、1873年の作品 “Chasm of the Colorado” のリメイクの観が強い。しかし、遠景の山々や、たちのぼる霧、雷雲の描き方はさらに Turner 色を強くしている。同じ頃に製作された “The Grand Canyon of The Yellowstone” (1893–1901年) は、1872年の前作と構図はほとんど同じであるが、岩山、川、滝、霧、雲の様式も黄色と白色を多く使う色彩も Turner に戻ったかと思われるほど、その影響が強く表現されている。

“Shoshone Falls on the Snake River” (1900年)

この作品は、Frederick E. Church が1857年に製作した “Niagara” からヒントを得た構図をとり、滝に可能な限り迫った視点で描かれている。Niagara は馬蹄形の滝であるが、Shoshone Falls もほぼ同形で弓形になっている。画面の左端に滝壺からのぼる虹も Church の作品 “Niagara” との共通点であるが、Church の作品では美しく弧を描いている。Moran の虹は形がなく、霧がそのまま虹と混同したように描写され、Turner の “Staffa: Fingal's Cave” (c.1832), “Valley of Aosta-Snowstorm, Avalanche and Thunderstorm” (1836–37), “Stormy Sea” (1835–40), “Snow Storm” (1842) などの作品に用いられた手法を連想させる。虹色となった滝の飛沫と、そこから発生した霧に使われた色彩の変化の美しさが強調されている。これは Moran が描いた西部の広漠たる大自然をテーマにした最後の大作のひとつである。

“Grand Canyon (From Hermit Rim Road)” (1912年)

これは Moran 75歳の作品であるが、ここで再び彼は1870年代のスタイル

に戻った観がある。グランドキャニオンに広がる無数の岩山を、ひとつひとつ丁寧に描き、前景の、おそらく自分が立っている場所の岩の様、樹木、灌木、草まで細密に描写している。画面左から嵐が迫ってきており、空は厚い雲で覆われているが、まだ明るさを残しており、一部の雲と岩山の群れには陽がさしている。構図はV字でも、U字でもないが、画面手前の二つの岩山には大きな裂け目があり、その裂け目から、すぐ前方の山の斜面がさらに深く落ちている様子がうかがえる。構成にはスリルがあり、色彩は前景も遠景も全体的に明るく、Moran が生涯追及した Turner の色もふんだんに使われている。おそらく彼の最後の作品のひとつであろう本作が、このように美しく、力強く、細密に、明るい色を駆使して仕上げられていることは、彼の、風景画家としての力量と精神力の持続を物語っているのではないだろうか。

Yellowstone の風景画を多く製作し、またその作品の多くが政府および鉄道会社などに買い上げられ、名声を博すようになると、Moran には“Yellowstone”というニックネームがつけられた。Tom “Yellowstone” Moran の頭文字を組み合わせると彼は、モノグラムを考案し、自らの作品に必ず書き記した。こうして Moran は生涯に1500を超える油彩画と、800の水彩画と、数え切れないほどのデッサン、版画、スケッチを遺した。Moran が師 Hamilton と同じく Turner の影響を強く受けていたことは明白な事実である。Hamilton に関しては、美術評論家のなかには Turner の模倣をしただけであると論じる者もいるほどで、彼自身の独特のスタイルは生まれなかったが、Moran は Turner の色彩、雲や霧を使つての画面上の動きを表現する手法などは、確かに影響を受けているが、Turner のように空気の動きの中にすべてのものが飲み込まれてしまい、形を失うような抽象的描写になつてしまうことはなかった。ロッキーの大自然にはそれを許さない荘厳さがあつた。その息をのむ壮大さを、目の前にしては、風景の大部分を霧

で隠してしまうような描き方を用いることはできなかった。霧で覆うにはあまりにも美しく、崇高で、その自然から伝わってくる spirit を表現できなくなる。それで霧のような描写は山裾とか、谷間に限定し、聳え立つ山々、巨大な滝や川などは、画家によって理想化された形になったとしても、はっきりと目に見える形で描き出されている。何と言っても Moran の賢明さは、Turner の色使いの卓越さを取り入れ、Turner 的 “ぼかし” の手法も必要な個所に取り入れて効果をあげながら、なおロッキーの大自然の迫力を力強く描ききったところにあった。

Bibliography:

Baigell, Matthew, *Dictionary of American Art*, Harper and Row, New York, 1979.

Eisenman, Stephen, F., *Nineteenth Century Art, a Critical History*, Thames and Hudson, London, 1996.

Flexner, James Thomas, *History of American Painting, Volume Three: That Wilder Image*, Dover Publications, New York, 1970.

Kinsey, Joni Louise, *Thomas Moran*, Smithsonian Institution, 1992.

Selz, Jean, *Turner*, Crown Publishers, New York, 1991.

Sweeney, J. Gray, *Masterpieces of Western American Art*, Crescent Books, New York, 1991.